



チュラロンコン大学

Chulalongkorn University



●学部学生 約25,000人 ●大学院生 約12,000人 ●教職員 約8,100人

ホームページ <http://www.chula.ac.th>

交流協定締結年月日：2010年2月1日 主管学部：農学部



チュラロンコン大学の構内の風景

理学部環境科学科の前にて

国際交流の特色

チュラロンコン大学は1917年にVajiravudh王（ラーマ6世）により設立され、彼の父の名前に因んでチュラロンコンと呼ばれるようになった。当時は行政学、工学、医学、文理学の4つの学部から構成され、初期原資や王家の宮殿を寄付し作られた。文理学部はラーマ6世の宮殿内にあった。1929年行政学部は法学部と政治学部に分かれた。1962年以降大学院教育に教育の主軸を移し、研究センターや研究所の設立を実施してきた。現在19の学部、23の大学院や研究施設等を有する総合大学であり、理学部には香川大学大学院農学研究科の修士が教員として活躍している。

交流実績（令和2年度～令和4年度）

年度	R2	R3	R4
受入・派遣			
学生の受入	0	2	2
学生の派遣	0	0	0
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	0	2
オンライン交流参加者（本学）	1	1	1
オンライン交流参加者（相手機関）	40	14	1



交流協定調印式

教員からの声

チュラロンコン大学は、タイの国内最高ランクに位置づけられる100年以上の歴史を有する名門大学です。香川大学農学部ではこれまで特に、理学部の食品工学科や海洋科学科、環境科学科、また、工学部応用化学科等と積極的に学術交流を進めてきました。チュラロンコン大学の卒業生が香川大学大学院農学研究科、愛媛大学大学院連合農学研究科（香川大学配属）に進学し、博士号を取得したケースも多数あります。私を含めた香川大学農学部の海洋環境研究グループでは、我々の研究室のOBであり、理学部環境科学科でAssistant Professorを務めているSrithongouthai博士の研究室を中心に学術交流を続けています。交流期間は既に15年近くに達しています。チュラロンコン大学の先生や学生さんは、タイ国内におけるエリートでありながら、気さくで親しみやすいが多い印象を持っています。まさに、微笑みの国タイといったところでしょうか。

農学部教授 山口 一岩